

日 程	科 目	学 部	学 科	専攻・コース	
3 月日程	日本語				
受験番号		氏 名			採 点

I 次の（ ）の中からもっとも適切なものを選び、○で囲みなさい。

- (1) 税金は、収入（ に対して につれて による に応じて ）負担が異なる。
- (2) レポートを書いている（ うちに たびに さいに あいだ ）、何を書きたいのかわからなくなってきた。
- (3) 人生を楽しむコツは、どんなときもプラス思考を（ 忘れない 忘れないことである 忘れないものである 忘れてはいけない ）。
- (4) グループで話し合っても、なかなかいい考えが（ 浮かべない 浮べられない 浮かばない 浮かばせない ）。
- (5) 大学を出るのがあと5分遅かったら、アルバイトに（ 遅刻してしまった 遅刻した 遅刻する 遅刻しそうな ）ところだった。
- (6) 新型コロナの感染者数が減ってきた（ といっても といえば からといって にもかかわらず ）、まだまだ安心できるレベルではない。
- (7) 有名な大学を卒業しても有名な企業に就職できる（ にちがいない わけがない はずがない わけではない ）。
- (8) 「ご不明な点は担当者に（ おうかがいして お聞きになって 申し上げて うかがって ）ください。」
- (9) 暗く写っていたので、パソコンで写真を（ 修理 修正 変更 修復 ）した。
- (10) コンピューターでこの作業を行うと、どんな（ バリュー プラス ポイント メリット ）がありますか？
- (11) 公開前の（ 批評 批判 評判 評論 ）が悪いからと言って、必ずしも悪い映画とは限らない。
- (12) 今日は何もすることがないので、YouTubeを見て暇を（ けずろう つぶそう うめよう なくそう ）。
- (13) 細かい規則が（ うるさい さわがしい にぎやかな けたたましい ）学校には通いたくない。
- (14) 委員長に選ばれて、責任の重さを（ せかせか びくびく ひしひし うかうか ）と感じている。
- (15) 彼女は両親の反対を（ 押し付けて 押し切って 押し通して 押しもどして ）、アメリカに留学した。

II 次の下線部に適切な表現を書き、文を完成させなさい。

- (1) 早く先生にメールを返信しなければと思いながら、
- (2) 道路が渋滞している時は、バスに乗るよりもむしろ
- (3) 女性の社会進出にともなって、
- (4) 留学するためには、せめて
- (5) ネットの情報は新聞よりも早く伝わるが、

日 程	科 目	学 部	学 科	専攻・コース	
3 月日程	日本語				
受験番号		氏 名			採 点

Ⅲ 次の下線部に適切な文を書き、文章を完成させなさい。

新型コロナウイルスの感染拡大によりオンライン授業が増えた。オンライン授業には次のような利点がある。

ひとつは、

もうひとつは、

しかし、問題点もある。それは、

Ⅳ つぎのA～Cに、下のア～ウの文を入れて、文章を完成させなさい。

進路でも買い物でも、「人それぞれ」に決めるためには、ある程度の選択^{せんたく}肢が必要です。何かを決めるさい、誰もがひとつのものしか選べないようでは、「人それぞれ」に何かを行うことは難しいでしょう。「人それぞれ」の社会を実現するには、多様な選択^{ひつす}肢が必須なのです。

しかし、多様な選択肢があったとしても、多様な選択を受け入れる心の広さがなければ、「人それぞれ」に物事を決定することはできません。

たとえば、就職活動を考えてみましょう。

就職活動では、服装^{ふくそう}をルールとして定められているわけではありません。

- (A)
- (B)
- (C)

就活生の服装の多様さを認めるほど寛容^{かんよう}ではない社会では、就職活動時の服装は、「人それぞれ」とはならないのです。「人それぞれ」に物事を行うには、多様な選択肢と、それぞれの選択を認める社会の受け皿が必要なのです。

ア なぜなら、就活生の自由な服装を、社会が認めていないからです。

イ しかし、就活生はけっしてそうはしません。

ウ つまり、就職活動生は、ルールという点だけをみれば「人それぞれ」にいろいろな格好^{かつこう}ができるのです。

(A)	(B)	(C)
-----	-----	-----

日 程	科 目	学 部	学 科	専攻・コース	
3 月日程	日本語				
受験番号		氏 名			採 点

V 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

今の社会は「個を a 尊重する社会」と言えるでしょうか。私たちが、拘束力が強く閉鎖的な集団を脱し、「一人」になることを求めた理由の奥底には、「集団ではなく個を尊重したい」という願望がありました。

たしかに、かつての社会より、多様な主義や信念は尊重されるようになりました。性的指向については、多様に配慮する方向で変化が進んでいます。10年前であれば、性的マイノリティを表す「LGBTQ」などといっても何のことか分からない人も多かったでしょう。

1980年代であれば、結婚をしない人生を貫き通すことはけっこう大変だったかもしれません。結婚しない人に「一人前ではない」と b 厳しい言葉が投げかけられたり、昇進で差別されたりすることもありました。そう考えると、私たちは「個を尊重する社会」に生きているように感じます。

、何でも自由に言えるようになったかという、そうでもない気がします。たとえば、①友人であっても気を遣って、なかなか深い話ができない、ということはないでしょうか。会社で管理職に就いている人であれば、「今は何でもハラスメントにされてしまうから、部下とどう接したらいいかわからない」という人もいるでしょう。

「個を尊重する社会」というのは、一人ひとりがそれぞれに独立した意見をもち、それを c 率直にぶつけられる社会という意味合いもありました。誰もが、気を遣いつつも、率直に意見をぶつけ合うことで、よりよい社会を d 築いていく。そういった対話のある社会が目指されてきたのです。

果たしてそういった社会は実現できたのでしょうか。世の中を見渡してみると、実際に到来したのは、目の前の他者に対して意見や批判をすることを憚り、それぞれが自分の殻に閉じこもる社会、あるいは、e 検索をつうじて、互いに意見の合致している人のみが結びつき、意見の合わない人は寄せ付けない分断型の社会ではないかと思うこともあります。そこからは、個を尊重する姿勢を読み取ることはできません。

では、なぜ②このようなことが起きてしまったのでしょうか。この謎を読み解く鍵として、本書では「人それぞれ」という言葉に着目します。

個人化*1と「人それぞれ」に強い親和性があるように、「人それぞれの社会」と「個を尊重する社会」は、じつは非常に近い位置にあります。というのも、「個を尊重」したからこそ、「人それぞれ」に陥ってしまう、ということがたびたびあるからです。詳しくみていきましょう。

「個を尊重する社会」とは、個々人の選択や決定を尊重する社会です。「一人」の生活の浸透とともに、生活のさまざまな場面で、個人の希望や選択がとりわけ重視されるようになりました。私たちは、集団ではなく自らの意思にしたがって、なんらかの行動を起こすことができるようになったのです。

③このような社会では、いわゆる「べき論*2」を使って、相手の行為や主義・信条に申し立てをすることはあまりできません。具体的に言うと、「男性ならばこうあるべき」、「部下ならばこうあるべき」などといった形で、なんらかのカテゴリーを持ち出して他者に意見をすることは、こんにちでは容易ではないのです。皆さんも思い当たるのではないのでしょうか。他者が表出した意見や行動は、いったん受け止めるというのが、個を尊重する社会の流儀なのです。

このように、個人の希望や選択が重視されるようになると、誰かの希望や選択に対して、否定的な意見をなかなか言い出

日 程	科 目	学 部	学 科	専攻・コース	
3 月日程	日本語				
受験番号		氏 名			採 点

せなくなります。というのも、相手の考えを否定する行為は、「相手の考えや行動を尊重しない行為」と解釈されかねないからです。だからこそ私たちは、相手の考え方や行動を否定しないよう細心の注意を **P**。

このような傾向は、若者の友人関係に顕著に表れています。日本では、1980年代から、友人と深く関わろうとせず、互いに傷つけ合わずに、場を円滑にやり過ごすことに重きをおく友人関係が目立つようになりました。土井隆義さんはこのような友人関係を、お互いの感覚のみに依拠し、相手を傷つけないよう過剰に配慮する「優しい関係」と表現しています。④場を円滑にやり過ごすには、相手を否定しない、あるいは、傷つけないコミュニケーションの技法が有効なのです。

とはいえ、「否定しない」というのは、そう簡単にできることではありません。もちろん、明確な否定表現や中傷表現は **f** 避ける、「べき論」は避けるといった形で、簡単な予防は可能です。しかし、相手を否定したかどうかの判定は、多くのコミュニケーションにおいて、曖昧な領域に留め置かれたままです。というのも、なんらかの表現に対する否定判定は、結局のところ、発せられた言葉や行動を受け止める相手の気持ちにゆだねられているからです。

Y、友だちから進路についての相談を受けたとしましょう。このとき、友だちの話す進路について「あまりよくない」と思ったとしても、それを伝えるのは容易ではありません。伝え方によっては、相手に「自分のことを否定された」と思われるかもしれないからです。もっと簡単な例で言うと、相手を褒めたつもりだったのに、反対の受け取られ方をする、ということは珍しくないでしょう。

このような状況は、私たちに非常に厄介な課題を突きつけます。私たちは、コミュニケーションの正解が見えないなか、相手の感情を **g** 損なう表現を避けつつ、その場を穏便にやり過ごすよう求められているのです。このような場で重宝されるのが「人それぞれ」という表現、または立ち位置です。「人それぞれ」という言葉は、相手の意向を損なわずに受容するという難題に対して、最適解を提供してくれます。

相手の考え方に **h** 違和感をもったとしても、「人それぞれ」と言っておけば、ひとまず対立を回避して、その場を取り繕うことができます。「べき論」を使って規範を押しつけてくる人よりも、「人それぞれ」と言って、相手を受け入れてくれる人のほうが好まれるでしょう。私たちは「人それぞれ」という言葉を使うことで、さまざまな場を穏便にやり過ごしているのです。

(石田光規『「人それぞれ」がさみしい』)

*1 個人化……社会のさまざまな単位が、集団から個人中心になること。
*2 べき論……義務を果たすこと、理想を実現しなければならないことなどを強く主張する論調。

問1 波線部 a～h の漢字の読みをひらがなで書きなさい。

- a 尊重 () b 厳しい () c 率直 ()
- d 築いて () e 検索 () f 避ける ()
- g 損なう () h 違和感 ()

No. 5

日 程	科 目	学 部	学 科	専攻・コース
3月日程	日本語			
受験番号		氏 名		
		採点		

問2 ^{くうらん}空欄

X

、

Y

に入る語として、もっとも適切なものを次のア～カからそれぞれ選びなさい。

ア たとえば イ さらに ウ だから
エ つまり オ しかし カ なぜなら

X	Y
---	---

問3 下線部①「友人であっても気を遣って、なかなか深い話ができない」とあるが、それはなぜか。

問4 下線部②「このようなこと」とはどのようなことを指しているか。

問5 下線部③「このような社会」とはどのような社会か。

--

問6 空欄 P に入る語として、もっとも適切なものを次のア～エから選りなさい。

ア 受けます イ 与えます ウ 払います エ 向けます

--

問7 下線部④「場を円滑にやり過ごすには、相手を否定しない、あるいは、傷つけないコミュニケーションの技法が有効な
のです」とあるが、具体的にどのような技法が有効であると述べられているか。

問8 次のア～エのうち、本文の内容とあっているものには○、そうでないものには×をつけなさい。

ア かつての社会では、多様な信念が尊重されにくく、結婚しないという選択はなかなか受け入れられなかった。

イ 今の社会は「個を尊重する社会」であり、一人ひとりの意見をぶつけ合う、対話のある社会が実現されている。

ウ 相手の行為や信条に対して「べき論」を用いて意見をすることは、「個を尊重する社会」の流儀に反している。

エ 「個を尊重する社会」では、どのようなコミュニケーションの取り方が正解なのか、わかりにくくなっている。